『大雑書』

大雑書は平安時代以降の陰陽道や宿曜道の系統をひき、八卦・方位・干支・星宿・七曜などによる日の吉凶、さまざまな禁忌やまじない、男女の相性運などを内容とした書物のことである。公家・武家階層の手引書として利用されていた雑書に、庶民の関心をひく生活情報、農事や家作、日常の儀礼、家相・人相・さまざまな雑占・夢判じをも取り込み、民間用に平易に記述したもの。様々な板元から版を重ねて出版されており、橋本萬平によれば大雑書は庶民の日常生活の指針に役立つものとして百種類近くも出版され、どんな家庭でも一冊は買っていたのではないかとしている。どの種類の大雑書にも目次の裏扉絵には一連の挿絵、「地底鯰之図」「須弥山之図」が挿入されるのが定番であった。この「地底鯰の図」というのは、日本六十余州の周囲をナマズが廻っており、その北端で首尾が交差し、そこに要石が打ちつけられている。その脇に「揺るぐとも　よもや抜けじの　要石　鹿島の神のあらんかぎりは」という地震歌と呼ばれたよく知られた和歌が添えられており、ナマズの外側には毎月の晴雨考が付加されている。要石とは、地震を抑えると称される石で、茨城県鹿嶋市の鹿島神宮の境内にあるものが著名である。直径25センチメートル、高さ15センチメートルほどの丸い石で、地中に深く根を張っているといわれ、地震をおこすナマズの頭を抑えていると考えられていた。

［参考文献］

森田登代子「大雑書研究序説 :『永代大雑書萬歴大成』の内容分析から」『日本研究』第29集、2004年12月、p. 247-276

暦ものがたり / 岡田芳朗〔著〕: 角川学芸出版 , 2012.8 908/K-7 SP N-205-1 2012111623

龍の棲む日本 / 黒田日出男著 : 岩波書店 , 2003.3 080/I-3新赤版 831 2003101068

鯰絵 : 民俗的想像力の世界 / コルネリウス・アウエハント著 小松和彦［ほか］共訳: せりか書房 , 1979.10 387/092 0079104894